

企画展

「歴史と文化を救う」 阪神淡路大震災から15年を迎えた今、これまで展開されてきた被災文化財の救出活動を検証し、今後の展望を考える機会にしたいと考えます。

会期 7月22日(木)～9月28日(火)
会場 本館展示場内

「伝統の布のいま」 東南アジアのふだん着にみる実情

東南アジアの国々で収集した「四角い布」や「筒型の布」などのふだん着を展示し、グローバル化が進展するなかで変貌をとげつつある伝統の布の実情を紹介します。

会期 7月22日(木)～9月14日(火)
会場 本館展示場内

音の力——夏のみんぱくフォーラム2010

◆研究公演
「侵略するガムラン」
実施日 7月11日(日)
時間 13時30分～15時13分(開場13時)
会場 特別展示館1階
※参加無料、申込不要

◆研究公演
「インド 歓喜の調べ——ラージャスターンの民俗音楽」
実施日 8月1日(日)
時間 13時30分～16時(開場13時)
会場 講堂
定員 450名
※参加無料、要申込
申し込み締切り 7月15日(木) 必着

◆研究公演
「スロバキアと太平簫——カンボジアと韓国のカンボメリア音楽」
実施日 8月14日(土)
時間 13時30分～16時(開場13時)
会場 講堂
定員 450名
※参加無料、要申込
申し込み締切り 7月29日(木) 必着

◆研究公演
「揺さぶる力——大阪浪速の太鼓打ち」
実施日 8月28日(土)
時間 座談会 13時30分～14時(開場13時)
太鼓演奏 14時15分～16時
会場 講堂
定員 450名
※参加無料、要申込
申し込み締切り 8月12日(木) 必着

◆研究公演
「わが故郷の歌」
実施日 7月24日(土)
時間 13時30分～16時(開場13時)
会場 講堂

往復はがきに住所・氏名(返信用おまてにも)・年齢・電話番号・参加人数(本人を含め4人まで)、「国立民族学博物館友の会」会員番号(会員のみの維持会員および正会員の方は優遇枠があります)と研究公演タイトル・実施日を書いて広報企画室企画連携係までお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

定員 450名
※当日10時より会場入口にて整理券配付
※参加無料、申込不要
以上 研究公演・映画会のお問い合わせ
広報企画室企画連携係
電話 06-6878-8210
(平日9時～17時)

国際シンポジウム
「The City in South Asia」
日時 7月18日(日) 10時30分～17時30分
7月19日(月) 10時30分～18時
7月20日(火) 10時30分～15時
会場 第4セミナー室
※参加無料、申込不要
※シンポジウムは英語でのご案内です。通訳はありません。

お問い合わせ
研究協力課共同利用係
電話 06-6878-8361
(平日9時～17時)

「学校と博物館をつくる国際理解教育——新しい民博展示を活用する——」
国立民族学博物館を活用した国際理解教育の実践事例の紹介やワークショップを通して国際理解教育における博学連携の意義や可能性について考えます。
実施日 8月5日(木)
時間 10時20分～17時(受付10時より)
会場 セミナー室及び本館展示場
〈第一部〉講演とミュージアムツアー
〈第二部〉ワークショップ
①民博のデジタル・コンテンツを利用した授業づくり
②仮面をつくらせて語って異文化理解
③「思いを込めた音」って何だろう?
④「じゅうたんをつくらう」を通して
⑤「ヒモノカタリ」みんなく編
⑥「アカン族」砂金採りの分銅(つくり)
※参加無料(定員に余裕があるワークショップは、当日参加も可也)

参加申し込み方法
所属・参加者名・参加希望ワークショップを明記のうえ、左記までお申し込みください。
情報企画課展示グループ
FAX 06-6878-7523
e-mail:hakugaku@idcmnpaku.ac.jp

夏休みイベント
「氷の国のくらしと樹の国のおまつり」
「カナダ先住民のくらしと文化を体験」
イグルー(雪の家)の模型の組立体験や、イヌイトのけん玉、ワタリガラスのお面を作ります。お面をかぶってボトラッチ(カナダ先住民のパレーイ)に参加しましょう。
実施日 8月1日(日)「氷の国のくらし」
8月8日(日)「樹の国のおまつり」
時間 10時30分～15時
会場 本館展示場ナビひろば、第3セミナー室、他
※参加無料(一部参加費・本館展示観覧料が必要なイベントもあります)
参加申し込み・お問い合わせ
財団法人千里文化財団
電話 06-6877-8893
(平日9時～17時)

※詳細については、みんなくホームページをご覧ください。

刊行物紹介

■出口類・三尾稔 編
「人類学的比較再考」
国立民族学博物館調査報告NO.90

■山路勝彦 責任編集
「民博通信」2010 NO.128
特集 植民地時代の日本人類学

みんなくフォーラム

会場 国立民族学博物館 講堂
時間 13時30分～15時13分(開場13時)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料
※本館展示をご覧になる方は、観覧料が必要です。

第386回 7月17日(土)

「新音楽展示関連」
聖人の力を伝えるガムラン
講師 福岡正太(文化資源研究センター准教授)



インドネシア、ジャワ島北海岸の町チルボンにあるカノマン王宮には、聖人の力を伝える楽器コン・スカティが所蔵されています。この楽器は、年に1回、イスラームの預言者ムハンマドの生誕祭に演奏されます。ゴングと鉄琴を中心に構成されるこのアンサンブルがもつと考えられている不思議な力について紹介します。

第387回 8月21日(土)

「新音楽展示関連」
主張する太鼓
講師 寺田吉孝(民族文化研究部教授)



1960年代以降、社会的正義を要求する運動の一部として太鼓を演奏する例が増えてきました。日本(大阪)の被差別部落、アジア系アメリカ人、インドのタリット(不可触民)などを例として、このような運動における太鼓演奏の意味・位置づけについて報告します。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場◇国立民族学博物館 第5セミナー室
定員◇96名(当日先着順、会員証提示)

第386回 8月7日(土)
時間●14時～15時30分

企画展「歴史と文化を救う」関連
被災した文化財が語りかける歴史と文化の記憶
講師 日高真吾(文化資源研究センター准教授)

文化財の保存・修復活動とは、単に「壊れたものを直す」ということにとどまりません。活動を通して「過去の人びとの生活の記憶が刻まれた歴史の証拠品」から新しい発見に出会うこともあります。いかにこの財産を次世代に継承することができるか、被災文化財の保存・修復活動の視点から解説します。
※講演会終了後、企画展見学会があります。

第387回 9月5日(日)
※今回は日曜の開催ですのでご注意ください
時間●14時～15時30分

19世紀アメリカのユートピア思想
講師 鈴木七美(先端人類科学研究部教授)

「若草物語」は作者のオルコット自身の少女時代をもとにした半自伝的な小説です。彼女の家族はエマソンやソローといった超越主義者とも交流があり、当時としてもユニークな家庭、教育環境で育ちました。その背景にある19世紀アメリカで展開したユートピア思想その理想的な生活についてお話しします。

東京講演会

第94回 7月19日(月・祝)

時間●14時～15時15分
会場◇国文学研究資料館 大会議室
定員●200名(要申込)
参加費●500円(友の会会員は無料)

人間文化研究機構連携展示「チベット ボン教の神がみ関連」
チベット ボン教とは何か
講師 長野泰彦(民族文化研究部教授)

ボン教は、仏教伝来以前からチベット文化域に広く分布している宗教で、チベット精神文化の基層を形成しています。ボン教の歴史や仏教との関連、現代におけるボン教の実態とボン教研究の意義についてお話しします。
※講演終了後、懇談会と展示解説があります。(友の会会員限定)

国立民族学博物館
ミュージアム
ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
[World Wide Bazaar]
http://www.senri-f.or.jp/shop/
e-mail shop@senri-f.or.jp

アクセサリーの映える季節です。

陽射しが徐々に夏色を帯びてきました。アクセサリーの映えるこの季節、個性豊かなネックレスを数多くそろえました。

インドネシアのトンボ玉「ペランギ」や、ケニア・マサイ族の深い赤が印象的な「ソアラ・ピース」を用いたネックレス、そしてエチオピア・クロスともいわれる「コプト・クロス」のペンダント・トップ。その土地で愛された彩りは繊細で思いのほかシック、柔らかな色調に魅了されます。すべて1点ものです。特別な一品に出会いに、ぜひミュージアム・ショップへお立ち寄りください。



トンボ玉ネックレス各種 8,925円～
コプト・クロス 15,750円